

5. 外国語の履修について

外国語の履修にあたり、各学部の必要単位数と履修の要件（各学部の指示事項、学部便覧等）を確認した上で、後述の指示に従い科目を選択してください。なお、各制限事項に反する予備登録・履修登録は全て無効であり、単位の認定もされないので注意してください。

(1) 全ての外国語についての注意事項

- ① 平成 28 年度に外国語科目群のカリキュラムの改編を行い、英語（リーディング、ライティング・リスニング A・B）は 2 単位の科目として開講しています。また、日本語を除く初修外国語について、平成 28 年度から〈初級〉の科目を 2 単位（ただし、「ドイツ語 I（6 時間コース）」は 12 単位、「フランス語 I（8 時間コース）」は 16 単位、「イタリア語 I」は 8 単位）の科目として開講し、平成 29 年度からは、〈中級〉以上の科目を 2 単位（ただし、「ドイツ語 II（6 時間コース）」、「フランス語 II（6 時間コース）」は各 12 単位）の科目として開講します。日本語は、平成 29 年度にカリキュラムの改編を行いました（p.63～）。しかし、平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生が、改編後の科目を履修し、単位を修得した場合には、2 分の 1 の単位数のみ卒業に必要な単位として算入されますので、注意してください。
- ② 初修外国語の初級の履修にあたっては、原則として以下の通り履修しなければなりません。
 1. イタリア語以外は前・後期それぞれに同一言語の 2 クラス（文法、演習）を履修すること。
 2. イタリア語は通年週 2 回セットのクラスを履修すること。
- ③ 入学時に初修外国語初級免除申請（国際高等教育院ウェブサイトを参照）または既修得単位認定申請（各学部）の手続きにより中級からの履修を認められた者は、特別履修手続き（p.41）を経て、本学で初級の単位を修得することなく中級以上の科目を履修することができます。この場合、予備登録が必要な科目については、初年度は予備登録の調整日に申し出てください。翌年度以降は通常の予備登録を行ってください。ただし、初修外国語初級免除の場合は初級の単位数が免除されるのではなく、卒業に必要な単位数を中級以上で修得しなければなりません。
- ④ 通常、同じ授業科目名の科目を 2 つ以上修得した場合は、修得年度の早いもの 1 つしか卒業に必要な単位として数えられません。また、1 週間のうちに複数開講されている科目は 1 つしか履修登録できません。しかし、次の外国語科目については対象外で、複数履修することが可能です。

[英語リーディング][英語 II A・II B]

[ドイツ語 II A・II B、II A（会話）・II B（会話）、II A（CALL）・II B（CALL）、II A（ライティング）・II B（ライティング）、III A・III B]

[フランス語 II A・II B、II A（演習）・II B（演習）、III A・III B][中国語 II A・II B][ロシア語 II A・II B]

[イタリア語 II A・II B、II A（演習）・II B（演習）]

[スペイン語 II A・II B、II A（演習）・II B（演習）]（ただし、[スペイン語 II A・B]、[スペイン語 II A・B（演習）]は前後期各 1 科目のみ履修可）

[朝鮮語 II A・II B、II A（演習）・II B（演習）][アラビア語 II A・II B、II A（演習）・II B（演習）]

ただし、同一テキストまたは同一教員が同じ内容で授業を行う科目の重複履修はできません。重複履修不可クラス又は科目群については、各外国語のページを参照してください。

- ⑤ 原則として、外国語科目名の A は前期、B は後期を意味しています。修得できなかった中級以上の初修外国語を履修登録する際に、開講期を揃える必要はありません（例：修得できなかった「ドイツ語 II B」分の単位を翌年度の「ドイツ語 II A」で修得することができます）。また、英語リーディングは開講期の区別がありませんので、修得できなかった「英語リーディング」分の単位を翌期に開講される「英語リーディング 単位未修得者クラス」で修得することができます。
- ⑥ 予備登録を要する科目は、受講クラスの予備登録をしなければ履修登録できません（p.46 参照）。
- ⑦ 日本語を母語としない外国人留学生は、母語である言語を外国語として履修することが原則としてできません。ただし、学部により取り扱いが異なりますので、各学部の便覧等を確認してください。

(2) 1 回生の履修クラスについて

① 英語、ドイツ語、フランス語、中国語またはスペイン語を選択した場合には履修クラスを指定しています。KULASIS の時間割ページで確認の上、指定されたクラスで履修してください。ロシア語、イタリア語、朝鮮語、アラビア語、日本語を選択した場合は、選択した外国語が開講されている時間に履修してください。なお、日本語については、p.63～の指示に従って履修してください。

選択した外国語の変更を希望する場合、また 3 か国語以上の外国語の履修を希望する場合は、前期は 4 月 19 日（水）までに、後期は 10 月 12 日（木）までに全学共通科目学生窓口へ申し出てください。

② 「英語ライティングーリスニング A 上級」、「英語ライティングーリスニング B 上級」、「ドイツ語 I（6H コース）」、「フランス語 I（8H コース）」は、自由選択制です。

③ 1 回生の外国語は全て第 1 回目の授業時間に教室に集合してください（履修クラスが指定されている場合は教科書持参のこと）。履修クラスが指定されていない科目は、受講希望学生が多数の場合には履修（人数）制限を行うことがあります。

英語のクラス編成は、リーディングとライティングーリスニングとで異なりますので、KULASIS [4 月 4 日（火）発表] で各自確認してください。

④ 前期に「英語リーディング」・「英語ライティングーリスニング A」・「ドイツ語 I A」・「フランス語 I A」・「中国語 I A」・「スペイン語 I A」を履修し単位が認定されなかった場合、後期開講の「英語リーディング単位未修得者クラス」・「英語ライティングーリスニング A 単位未修得者クラス」・「ドイツ語 I A 再履修クラス」・「フランス語 I A 再履修クラス」・「中国語 I A 再履修クラス」・「スペイン語 I A 再履修クラス」をそれぞれ履修することにより、当該科目の単位を同一年度に補うことができます。これらは予備登録が必要です。予備登録についての詳細は、「(3) 2 回生以上の履修クラスについて [外国語予備登録]」を参照してください。ただし、1 回生で KULASIS ページ内の外国語予備登録ページにアクセスできるのは、「英語リーディング」・「英語ライティングーリスニング A」・「ドイツ語 I A」・「フランス語 I A」・「中国語 I A」・「スペイン語 I A」を履修し単位が認定されなかった場合に限りです。

(3) 2 回生以上の履修クラスについて [外国語予備登録]（一部、1 回生後期を含む）

各外国語とも全て自由選択制となっていますが、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語については、前期と後期に予備登録を実施します。いずれも授業開始日前に行いますので、期日に注意して申込をしてください。外国語予備登録ページは予備登録開始日の約 2 週間前から KULASIS に表示されます。

また、外国語予備登録に関してよくある質問をまとめた「外国語予備登録 Q&A」を国際高等教育院 HP (<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>) の「在学生・学内の方へ」の Q&A 内に掲載していますので、参考にしてください。

その他の外国語については予備登録は不要ですが、受講希望者多数の際は履修（人数）制限を行うことがあります。掲示による指示がある場合はそれに従い、ない場合は必ず第 1 回目の授業に出席してください。

《外国語中級等（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語）の予備登録について》

予備登録申込手続きは、KULASIS から行います。申込者数が定員を超えたクラスは抽選を行います。第 1 回目の抽選に漏れた場合、第 2 回目→第 3 回目→第 4 回目の申込ができます。4 回とも抽選に参加し、落選した場合は、調整日に対応します。ただし、正当な理由なく 4 回の申込機会を放棄した者については、調整日に調整を受ける権利をも放棄したとみなしますので、注意してください。

なお、予備登録が必要な通年クラスには前期の予備登録で申し込むため、後期の予備登録は必要ありません。

登録申込の手順	前開講期の全学共通科目合格科目一覧は予備登録ページより確認できます。成績を確認の上、1 回の申込につき各カテゴリー毎に 1 クラスを申し込んでください。外国語によって再履修クラスの有無や、クラス定員や登録可能クラス数の上限が異なるので、詳細は各外国語の予備登録上の注意事項を確認してから申し込んでください。1 カテゴリーにつき 2 科目以上の申込をする必要のある場合は、まず、1 科目のクラスが決定してから、2 回目の申込日以降に 2 科目めの申込を行ってください。
申込方法	予備登録ページ上で、希望クラスを申し込んでください。予備登録ページには携帯電話及びパソコンからアクセスできます。学術情報メディアセンター端末（附属図書館及び各学部のサテライトにも設置されている）も利用できます。問題が生じた場合は、全学共通科目学生窓口で相談してください。

予備登録ページオープン	【前期】3月17日(金)	【後期】9月12日(火)
1) 第1回申込日	【前期】4月3日(月) 8:00~18:00	【後期】9月25日(月) 8:00~18:00
抽選・結果発表	抽選終了後、結果をメールで送信します。結果は KULASIS でも確認できます。抽選に漏れた者は、第1回目と同じ方法で以下に従って申し込んでください。	
2) 第2回申込日	【前期】4月4日(火) 8:00~18:00	【後期】9月26日(火) 8:00~18:00
抽選・結果発表	【前期】4月4日(火) 申込締め切り後	【後期】9月26日(火) 申込締め切り後
3) 第3回申込日	【前期】4月5日(水) 8:00~18:00	【後期】9月27日(水) 8:00~18:00
抽選・結果発表	【前期】4月5日(水) 申込締め切り後	【後期】9月27日(水) 申込締め切り後
4) 第4回申込日	【前期】4月6日(木) 8:00~18:00	【後期】9月28日(木) 8:00~18:00
抽選・結果発表	【前期】4月6日(木) 申込締め切り後	【後期】9月28日(木) 申込締め切り後
5) 調整日	【前期】4月7日(金)	【後期】9月29日(金)
	4回とも抽選に参加し落選した者、卒業に必要な単位以上に受講を希望する者、及び既修得単位認定者、初級免除認定者、大学院学生などに対して調整を行います。 なお、英語については、卒業に必要な単位以上に受講を希望する者についての調整は一切行っていません。 受付場所・各外国語の受付時間については、KULASIS でお知らせします。調整後の結果はメールまたは KULASIS で確認してください。	
6) 履修登録	【前期】4月20日(木) ~24日(月)	【後期】10月13日(金) ~17日(火)
	履修登録(p.40~参照)は上記の予備登録の結果に従って登録してください。予備登録期間終了後、KULASIS の履修登録候補科目設定画面に予備登録された科目が表示されます。候補科目設定画面ではまだ履修登録は終わっていません。履修登録期間に必ず確定してください。	

日程は変更されることがありますので、外国語予備登録ページ(KULASIS内)で最新情報を確認してください。

(4) CALL について

CALL(コール)とは Computer-Assisted Language Learning の略で、コンピュータを使った外国語学習です。CALLの様式としては、コンピュータを LAN やインターネットなどのネットワークにつないで端末として使う場合と、ネットワークにつながらないで単体として使う場合があります。いずれの場合も、CALL 用に開発した特定の教材を使用する場合と、そうでない場合があります。ネットワークを使う場合は、メールやチャットのような機能を利用することもあり、外国語学習のために作られたウェブサイト(学習サイト)を利用することもあります。また、場所に関しては、曜日・時限・教室という時空間の制限内で行う「教室あり CALL」もありますが、パソコンさえあればいつでも、どこでも、学習者の都合に合わせて「自律学習」を行う「教室なし CALL」もあります。

自律学習型 CALL では、学習者が時間を自由に使うことができるという点が強みです。外国語の学習には、目標言語に浸り、その言語を使って自分で作業している時間が決め手になる側面がいくつもあります。そういう側面に関しては、限られた時空間の制限内で行う伝統的な授業よりは、自律学習型 CALL のほうが有利なことがあります。

本学の外国語でどのような種類の CALL を行うかは、言語・担当者・クラスなどによって異なります。例えば、英語 II の単位未修得者クラスの CALL の場合では、教室なしの自律学習型の CALL を行いますが、言語やクラスによっては、教室あり CALL と教室なし CALL を併用する場合や、教室あり CALL に限定する場合があります。

自習用のコンピュータは、学術情報メディアセンター(南館)1階にあります。

なお、CALL は Learning であり、あえて Teaching と呼んでいません。主役は、教える教師ではなく、学ぶ学生であるからです。CALL では、特に自ら作業することによって学ぶことを心がけてください。

(5) 各外国語科目の説明と履修上の注意事項

A. 英語の科目編成

多様な学術的言語技能を育成するために、英語と英語 II として以下のクラスを用意しています。

①英語(平成 28 年度以降入学者対象)

英語は大別して、リーディングクラスとライティング・リスニングクラスの二つの区分があり、それぞれを履修しなければなりません。前者は、学部の履修方針に応じた学術的な文献やまとまった長さを持つ洋書などのアカデミックリーディングを通じ、英語による学術的教養の涵養を目標としています。後者は、エッセイやレポートなどのアカデミックライティングを通じ、学術的言語技能を養うことを目標としています。また、オンラインによるアカデミックリスニ

ング課題に取り組むことにより、英語による講義の聴講を念頭に置いた聴解力の育成を目指します。いずれのクラスも、大学の英語科目としてふさわしい内容とレベルを考慮しています。

ライティングーリスニングクラスについては、上級者用クラス（「英語ライティングーリスニング A 上級」、「英語ライティングーリスニング B 上級」）を開講します。これらのクラスは自由選択制であり、以下の(a)～(c)のいずれかの判断基準を満たす場合、申請し認められれば、指定クラスの代わりに受講することができます。ただし、受講希望者多数の際は履修（人数）制限を行うことがあります。

- (a) TOEFL iBT のスコアが 80 以上の者、もしくは IELTS のスコアが 6.0 以上の者
- (b) 1 回生の 4 月に一斉受験する TOEFL ITP で 600 点以上のスコアがあった者（「英語ライティングーリスニング B 上級」履修の場合に限る）
- (c) 英語を日常的に使用する環境（外国の学校、インターナショナルスクールなど）で教育を受けた者のうち、国際高等教育院で実施する資格審査に合格した者

申請期間や申請方法、オンラインリスニング課題の取り扱い、成績評価方法などの詳細については、ガイダンスやリスニングオフィスアワーにおいて説明します。

②英語Ⅱ（平成 27 年度以前入学者対象）

英語Ⅱは、平成 27 年度以前入学者で卒業に必要な英語の単位を充足していない単位未修得者のためのクラスです。アカデミックリスニングを行う CALL クラスと、それ以外のことを行う対面形式のクラスがあります。どのクラスもクラス指定ではなく選択制で、予備登録が必要です。

◆ 英 語 ◆

《英語》〔E〕（平成 28 年度以降入学者対象）

※外国語予備登録は p.46～参照

科目名	符 号	開講期	単 位	対象回生	定 員	外国語予備登録	備 考
英語リーディング	ER	前期	2	1 のみ	約 40	要	1 回生専用クラス・アカデミックリーディング
		後期	2	1 のみ	約 40		
	ESR	前期	2	2 以上	約 60	要	単位未修得者クラス
		後期	2	1 以上	約 60		
英語ライティングーリスニング A	EWLA	前期	2	1 のみ	約 20	要	1 回生専用クラス・アカデミックライティング&リスニング 1 回生専用上級クラス・アカデミックライティング&リスニング
		後期	2	1 のみ	約 30		
	ESWLA	前期	2	2 以上	約 30	要	単位未修得者クラス
後期	2	1 以上	約 30				
英語ライティングーリスニング B	EWLB	後期	2	1 のみ	約 20	要	1 回生専用クラス・アカデミックライティング&リスニング 1 回生専用上級クラス・アカデミックライティング&リスニング
		後期	2	1 のみ	約 30		
	ESWLB	前期	2	2 以上	約 30	要	単位未修得者クラス
後期	2	2 以上	約 30				

【履修上の注意】

- ▶ 1 回生専用クラス及び英語ライティングーリスニングの上級クラスは予備登録は不要ですが、単位未修得者クラスは予備登録が必要です。
- ▶ 英語は全て半期科目で、各 2 単位です。アカデミックリーディングの英語リーディング（ER）と、アカデミックライティング&アカデミックリスニングの英語ライティングーリスニング（EWLA 及び EWLB）に区分されています。
- ▶ 1 回生は開講期ごとに、英語リーディングと英語ライティングーリスニングを両方履修してください。
- ▶ 4 月に実施予定の TOEFL ITP 試験の受験を、1 回生後期以降の英語科目の履修登録の要件としています。英語選択者は必ず受験してください。
- ▶ 12 月 9 日（土）に実施予定の TOEFL ITP 試験の成績を、後期開講の英語ライティングーリスニング B の成績評価の一部として利用します。詳細はシラバスで確認してください。
- ▶ 英語ライティングーリスニング A・B では、一定の基準を満たす学生を対象に上級クラスを開講します。詳細は前期は 4 月初旬、後期は 10 月初旬に掲示します。
- ▶ 1 回生の後期開始段階で英語リーディングまたは英語ライティングーリスニング A の単位を修得していない場合は、1 回生の後期に対応する単位未修得者クラスを履修し、不足単位を補うことができます。ただし、英語ライティングーリスニング A 単位未修得者クラスと英語ライティングーリスニング B の並行履修は推奨しません。前期に英語ライテ

イングリッシング A の単位を修得していない学生は、後期に英語ライティングーリスニング A 単位未修得者クラスを履修することを推奨します。

- ▶平成 28 年度以降入学者は英語Ⅱの単位未修得者クラスを履修し、不足単位を補うことはできません。
- ▶前・後期にかかわらず、英語リーディング単位未修得者クラス、英語ライティングーリスニング A 単位未修得者クラスと英語ライティングーリスニング B 単位未修得者クラスが開講されますが、一開講期に履修できる単位未修得者クラスは、原則英語リーディングが 1 クラス、英語ライティングーリスニング A または B から 1 クラスです。なお、この場合も英語ライティングーリスニングは A を先に履修することを推奨します。ただし、その開講期終了時の卒業や進級・コース分属などのため、当該期に英語リーディングを 2 クラス、または英語ライティングーリスニング A および B の履修を希望する学生は予備登録の調整日に対応します。
- ▶英語リーディングの単位が不足している場合は、開講期に関係なく単位未修得者クラスを履修してください。例えば、前期開講の英語リーディングの単位を、後期開講の英語リーディング単位未修得者クラスの単位で補うことが可能です。
- ▶英語ライティングーリスニング B 単位未修得者クラスにおいても、成績評価の一部として 1 回生時に受験した TOEFL ITP 試験の成績を利用します。なお、希望すれば改めて TOEFL ITP 試験を受験し、その成績を成績評価の一部として利用することができます。ただし、その受験料（約 4,000 円）は、履修者の負担とします。
- ▶英語リーディングまたは英語ライティングーリスニング A・B に相当する既修得単位がある学生が、残りの英語の不足単位分を修得する場合は、英語リーディングまたは英語ライティングーリスニング A・B を履修するのが原則です。
- ▶工学部地球工学科国際コースに所属する学生は、次のクラス指定されている英語を履修してください

科目名	開講期	単位※	対象回生	外国語予備登録	備考
Scientific English I A (Reading and Writing)	通年	4	1 以上	/	工学部地球工学科国際コース 1 回生クラス指定科目
Scientific English I B (Technical Communication & Discussions)	通年	4			

※平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生が履修し、単位を修得した場合には、上記単位数の 2 分の 1 が卒業に必要な単位として参入されます。

【英語Ⅱ】〔E2〕（平成 27 年度以前入学者対象） ※全て外国語予備登録（p.46～参照）が必要です。

科目名	符号	開講期	単位	対象回生	定員	外国語予備登録	備考
英語ⅡA	E2CA	前期集中	1	2 以上	210	要	単位未修得者専用 CALL クラス・自律学習型 CALL CALL 以外の単位未修得者専用クラス
	E2SA	前期	1	2 以上	60		
英語ⅡB	E2CB	後期集中	1	2 以上	210	要	単位未修得者専用 CALL クラス・自律学習型 CALL CALL 以外の単位未修得者専用クラス
	E2SB	後期	1	2 以上	60		

【履修上の注意】

- ◇ 符号の A は前期開講科目、B は後期開講科目です。
- ◇ 英語Ⅱの科目は、どの科目でも予備登録を経なければ履修できません。
- ◇ 自律学習型 CALL 科目（前期集中科目『E2CA』、後期集中科目『E2CB』）は、同じ開講期に 1 科目しか履修できません。
- ◇ 英語Ⅱは、どの科目も半期科目であり、1 単位が認定されます。
- ◇ 単位未修得者とは、平成 27 年度以前入学の学部生で、卒業に必要な英語Ⅰ・英語Ⅱの単位数を充足していない学生です。
- ◇ 英語Ⅱの E2C の CALL は、自宅などのコンピュータを使い、指定された教材を学習する「自律学習型の CALL」です。教室に行くのは、履修説明会と試験のときだけです。また、この CALL システムは、専門の業者が管理するサーバーで運用しているため、その管理料として履修者一人あたり 2,500 円を負担してもらう必要があります。
- ◇ 英語Ⅱの単位未修得者専用クラスは、平成 27 年度以前入学者向けに経過措置として一定の期間（E2C は平成 29 年度末まで、E2S は平成 30 年度末まで）開講される予定です。

■予備登録上の注意■

- ①単位未修得者専用の CALL クラスである E2C は、平成 27 年度以前入学の単位未修得者が履修する科目です。何単位不足していても単位未修得者であれば、一開講期につき 1 単位は必ずこの CALL で履修しなければなりません。
- ②E2C の CALL では、一開講期に全クラスで同一教材を使用するため、予備登録ができるのは 1 クラスのみです。
- ③E2C の CALL を履修してもなお不足する未修得単位がある場合には、CALL 以外の単位未修得者専用クラスである E2S で履修しなければなりません。

- ④上記①②③の規定は、過去に単位未修得者専用 CALL クラスで単位を修得したことがある場合にも適用されます。したがって未修得単位を完全に充足できない場合には、単位未修得者専用の CALL を次の開講期に繰り返し履修する必要があります。
- ⑤E2C クラスでは、評価が不合格であった履修者のうち、一定の基準以上の成績を得た者を対象に補講と再試験を実施します。補講と再試験の詳細は別途履修者に通知します。
- ⑥E2S の前期クラスと後期クラスとで、別の教員が同一の教材を使うか、同じ教員が同一内容の授業を行う場合、両方のクラスに予備登録することはできません。ただし、同じ教員が前後期にわたり同一教科書で異なる箇所を使う場合などでは、その限りではありません。なお、平成 29 年度に該当科目はありません。
- ⑦単位未修得者専用クラスへの予備登録では、卒業に必要な単位数の未修得点を超えて登録することはできません。また、一開講期に登録できるのは 3 クラスまでです。例えば不足している単位数が 4 である場合は、全てを一つの開講期で修得することはできず、1 単位は E2C のクラスで、残り 2 単位は二つの E2S のクラスで履修します。残りの不足単位数は、それ以降の開講期に履修することになります。
- ⑧E2C のクラスを履修してもなお卒業に必要な単位数に不足し、かつ学部専門科目の時間割の都合により、E2S のクラスを履修できない場合、不足する卒業に必要な単位数の範囲内、かつ一開講期につき 2 科目を上限として、E1・E3 科目の履修を許可することがあります。ただし、その履修には予備登録が必要で、定員に余裕のある場合に限りませす (p.65～)。
- ⑨卒業回生で、一開講期に 4 クラス以上の単位未修得者専用クラス及び予備登録が必要な E1・E3 科目を履修することにより、その開講期終了時の卒業が期待できる場合は、上記⑦の「一開講期に 3 クラス以内」という制限を緩和する例外措置をとることがあります。予備登録の調整日に個別に対応しますが、その際、修得済み単位数が卒業に必要な単位数の 90%を超えていることを成績表 (の写し) などによって証明しなければなりません。ただし、卒業論文などの必修科目の単位数の関係で 90%超の要件を満たすことが不可能な場合は、成績表を持参の上、予備登録の調整日までに全学共通科目学生窓口へ申し出てください。
- ⑩学士入学者や編入学者などの既修得単位認定者は、予備登録の調整日に個別に対応します。
- ⑪大学院学生は、原則英語Ⅱ単位未修得者専用クラスを履修することができません。
- ⑫予備登録については、国際高等教育院 HP (<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>) の「在学生・学内の方へ」の Q&A 内から「外国語予備登録 Q&A」も確認してください。

B. 初修外国語の科目編成

①1 回生の授業 (初級)

初級の授業 (イタリア語を除く) は、「文法」と「演習」からなり、それぞれ相互に補いながら行われます (〇〇語 I A (文法)・I B (文法)・I A (演習)・I B (演習) で 8 単位修得することが標準)。また、この標準的なコースの他に、インテンシブ・コースなどがある外国語もあります。1 回生向けの授業は、当該言語の基本的構造や表現を学ぶことで、その言語圏の文化に触れるとともに、学術的言語技能の基礎を養うことを目標としています。

②2 回生以上の授業 (中級・上級)

中級では、「精読」「作文」「会話」「聴き取り」などを通じて言語技能を向上させると同時に、その言語共同体の文化や思考方法を理解するための授業が行われます。中級の授業は、初級の授業で身につけた基礎的言語技能を充実させ、学術的言語技能の涵養に資することを目標としています。

上級の授業では、高度な内容の文章を読むこと、書くこと、口頭で発表することなどが行われます。上級では、中級で身につけた言語技能をさらに発展させ、学術的言語技能の修得を目標としています。

※ 初修外国語 (中級・上級) 履修上の例外措置について (ドイツ語・フランス語・中国語)

初修外国語 (中級・上級) については、原則として、一開講期に 3 クラス以上の外国語予備登録をすることはできません。ただし、卒業回生で、一開講期に 3 クラス以上履修することにより、その開講期終了時の卒業が期待できる場合は、上記の「一開講期に 2 クラス以内」という制限を緩和する例外措置をとることがあります。

修得済み単位数が卒業に必要な単位数の 90%を超えていることを証明できる成績表 (の写し) などを持参のうえ、予備登録調整日に申し出てください。ただし、卒業論文などの必修科目の単位数の関係で 90%超の要件を満たすことが不可能な場合は、成績表を持参の上、予備登録の調整日までに全学共通科目学生窓口へ申し出てください。

この例外措置は、ドイツ語、フランス語、中国語に限り適用されます。

◆ ドイツ語 ◆

《ドイツ語Ⅰ（初級）》〔D1〕 ※外国語予備登録は p.46～参照

科目名	符号	開講期	単位	対象 回生	外国語 予備登録	備考
ドイツ語ⅠA（文法）	D11A	前期	2	1以上	2回生以上 は要	1回生向けクラス指定
ドイツ語ⅠA（演習）	D12A	〃	2			
ドイツ語Ⅰ（6Hコース）	D15	通年	12	1以上		
ドイツ語ⅠA（文法） 再履修クラス	D11A	前期	2	2以上	要	集中クラス（CALL）あり。集中クラスはIB またはIの履修歴のある者に限る。
ドイツ語ⅠA（演習） 再履修クラス	D12A	〃	2			
ドイツ語ⅠB（文法） 再履修クラス	D11B	〃	2			
ドイツ語ⅠB（演習） 再履修クラス	D12B	〃	2			
ドイツ語ⅠB（文法）	D11B	後期	2	1以上	2回生以上 は要	1回生向けクラス指定
ドイツ語ⅠB（演習）	D12B	〃	2			
ドイツ語ⅠA（文法） 再履修クラス	D11A	〃	2	1以上	要	集中クラス（CALL）あり。集中クラスはIA またはIの履修歴のある者に限る。
ドイツ語ⅠA（演習） 再履修クラス	D12A	〃	2			
ドイツ語ⅠB（文法） 再履修クラス	D11B	〃	2	2以上	要	
ドイツ語ⅠB（演習） 再履修クラス	D12B	〃	2			

【履修上の注意】

- ◇ 平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生が履修し、単位を修得した場合には、上記単位数の 2 分の 1 が卒業に必要な単位として算入されます。
- ◇ （文法）と（演習）は両方履修してください。
- ◇ （文法）と（演習）を履修する 1 回生は指定クラスで、再履修者は再履修クラスで履修してください。
- ◇ （文法）と（演習）を履修する 2 回生以上の新規履修者及び、回生を問わず第 3 外国語としてドイツ語の履修を希望する者は、1 回生向け指定クラスのいずれかを選び履修してください。
- ◇ 後期から新たにドイツ語を履修する者は、『ドイツ語ⅠA 再履修クラス』で受講してください。ただし、集中クラス（CALL）は、再履修者に限るため履修できません。
- ◇ （文法）と（演習）の双方が必要な場合は同一クラスで履修してください。1 クラスのみを履修希望の場合は（文法）を履修してください。ⅠA・ⅠBを通して同じクラスで履修することが望ましい。
- ◇ （6H コース）は（文法）と（演習）の代わりに履修することができます。

《ドイツ語Ⅱ（中級）》〔D2〕 ※外国語予備登録は p.46～参照

科目名	符号	開講期	単位	対象 回生	外国語 予備登録	備考
ドイツ語ⅡA	D21A	前期	2	2以上	要	
ドイツ語ⅡA（会話）	D22A	〃	2			
ドイツ語ⅡA（CALL）	D23A	〃	2			
ドイツ語ⅡA（ライティング）	D24A	〃	2			
ドイツ語Ⅱ（6Hコース）	D25	通年	12	2以上	要	
ドイツ語ⅡB	D21B	後期	2	2以上	要	
ドイツ語ⅡB（会話）	D22B	〃	2			
ドイツ語ⅡB（CALL）	D23B	〃	2			
ドイツ語ⅡB（ライティング）	D24B	〃	2			

【履修上の注意】

- ◇ 平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生が履修し、単位を修得した場合には、上記単位数の 2 分の 1 が卒業に必要な単位として算入されます。
- ◇ 平成 28 年度以降の卒業要件が適用される学部生は、<初級>を 4 単位以上修得していること、平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生は、卒業に必要な単位として<初級>を 2 単位以上修得していることを条件とします。また、入学時に初修外国語初級免除か既修得単位が認定されている学生も履修を認めます。
- ◇ 一開講期に 2 クラスまで履修することができます。

《ドイツ語Ⅲ（上級）》〔D3〕 ※外国語予備登録は p.46～参照

科目名	符号	開講期	単位	対象 回生	外国語 予備登録	備考
ドイツ語ⅢA	D3A	前期	2	2以上	要	
ドイツ語ⅢB	D3B	後期	2	2以上	要	

【履修上の注意】

- ◇ <上級>コースであるが、<中級>の代わりに履修することができます。
- ◇ 平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生が履修し、単位を修得した場合には、上記単位数の 2 分の 1 が卒業に必要な単位として算入されます。

■ 予備登録上の注意 ■

- ① ドイツ語の<中級>・<上級>を予備登録するためには、平成 28 年度以降の卒業要件が適用される学部生は、<初級>の単位を 4 単位以上、平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生は、卒業に必要な単位として<初級>の単位を 2 単位以上修得していなければなりません。
 <初級>の単位については、文法と実習（演習）の別は問いませんが、ドイツ語 I A と I B の組み合わせ（または平成 21 年度までのドイツ語 I）を修得していなければなりません。
 上記のとおり<初級>の単位を修得していれば、<中級>・<上級>を一開講期で 2 クラス（上限）まで予備登録をすることができます。この上限または、卒業に必要な単位数（ただし、原則として 2 クラスを超えることはできません）を超えて予備登録した場合には、全てのクラスが履修できなくなることがあります。ただし、卒業回生については例外措置を取ることがあります（p.50 参照）。
- ② <中級>の授業は、全てのクラスの中から、定員に余裕のある限り希望するクラスを選択できます。
- ③ <上級>は<中級>までの単位を修得した者のための科目ですが、<中級>の代わりに履修することもできます。
- ④ <初級> の再履修者は、<初級> の再履修クラスに予備登録してください。<中級>・<上級>の単位を<初級>に替えることはできません。
 平成 21 年度まで開講のドイツ語 I（文法）の再履修者はドイツ語 I A・I B（文法）の再履修クラスを、ドイツ語 I（実習）の再履修者はドイツ語 I A・I B（演習）の再履修クラスを履修してください。
 平成 27 年度まで開講のドイツ語 I A（実習）の再履修者はドイツ語 I A（演習）再履修クラスを、ドイツ語 I B（実習）の再履修者はドイツ語 I B（演習）再履修クラスを履修してください。
- ⑤（文法）と（演習）を履修する 2 回生以上の新規履修者及び、回生を問わず第 3 外国語としてドイツ語の履修を希望する者は、1 回生向け指定クラスのいずれかを選び、履修してください（予備登録が必要）。（文法）と（演習）の双方が必要な場合は同一クラスで履修してください。1 クラスのみを履修希望の場合は（文法）を履修してください。I A・I B を通して同じクラスで履修することが望ましい。
- ⑥ 学士入学者や編入学者等の既修得単位認定者及び他大学・外国学校等でドイツ語を学び、入学時に初級免除を認定された者が<中級>以上を履修する場合は、初年度は予備登録の調整日に個別に対応します。翌年度以降は、通常の予備登録を行った上で履修登録してください。なお、本学での <初級>の単位を取得せずに<中級>・<上級>を履修する場合は、予備登録の手続き以外に「特別履修手続き」が必要です。
- ⑦ 入学時に初級免除の認定を受けた者は、必要な単位の全てを<中級>・<上級>から修得してください。この場合も、予備登録できるクラス数は一開講期で 2 クラスを上限とします。
- ⑧ 大学院学生が<中級>以上のドイツ語の履修を希望する場合は、予備登録の調整日に個別に対応します。
- ⑨ 予備登録については、国際高等教育院 HP (<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>) の「在学生・学内の方へ」の Q&A 内から「外国語予備登録 Q&A」も確認してください。
- ⑩ 下表のそれぞれの組合せは、同一テキストで同じ内容の授業を行うクラスのため、重複履修はできません。

組合せ	開講期	曜時限	科 目 名	クラス番号	担当教員
1	前期	月 3	ドイツ語 II A	D2101	友田 和秀
	前期	水 2	ドイツ語 II A	D2111	細見 和之
2	前期	月 4	ドイツ語 II A	D2102	井尻 楽
	前期	火 1	ドイツ語 II A	D2105	杉村 涼子
3	前期	月 5	ドイツ語 II A	D2104	青木 三陽
	前期	水 2	ドイツ語 II A	D2110	西井 美幸
	前期	木 3	ドイツ語 II A	D2116	西村 木綿
4	前期	木 2	ドイツ語 II A	D2114	奥田 敏広
	前期	木 5	ドイツ語 II A	D2117	南 剛
5	後期	月 4	ドイツ語 II B	D2152	井尻 楽
	後期	火 1	ドイツ語 II B	D2155	杉村 涼子
6	後期	月 5	ドイツ語 II B	D2154	青木 三陽
	後期	木 3	ドイツ語 II B	D2166	西村 木綿
7	後期	木 1	ドイツ語 II B	D2163	武田 良材
	後期	木 2	ドイツ語 II B	D2164	奥田 敏広

◆ フランス語 ◆

《フランス語Ⅰ（初級）》〔F1〕 ※外国語予備登録は p.46～参照

科目名	符号	開講期	単位	対象回生	外国語予備登録	備考
フランス語ⅠA（文法）	F11A	前期	2	1以上	2回生以上は要	1回生向けクラス指定
フランス語ⅠA（演習）	F12A	Ⅱ	2			
フランス語Ⅰ（8Hコース）	F13	通年	16	1以上		
フランス語ⅠB（文法）・再履修クラス	F11B	前期	2	2以上	要	文法は集中クラスあり。集中クラスはⅠBまたはⅠの履修履歴のある者に限る。
フランス語ⅠB（演習）・再履修クラス	F12B	Ⅱ	2			
フランス語ⅠB（文法）	F11B	後期	2	1以上	2回生以上は要	1回生向けクラス指定
フランス語ⅠB（演習）	F12B	Ⅱ	2			
フランス語ⅠA（文法）・再履修クラス	F11A	後期	2	1以上	要	文法は集中クラスあり。集中クラスはⅠAまたはⅠの履修履歴のある者に限る。
フランス語ⅠA（演習）・再履修クラス	F12A	Ⅱ	2			

【履修上の注意】

- ◇ 平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生が履修し、単位を修得した場合には、上記単位数の 2 分の 1 が卒業に必要な単位として算入されます。
- ◇ （文法）と（演習）は両方履修してください。
- ◇ （文法）と（演習）を履修する 1 回生は指定クラスで、再履修者は再履修クラスで履修してください。
再履修者で前期にⅠA、後期にⅠBの履修を希望する者は、1 回生向け指定クラスのいずれかを選び、履修してください。
- ◇ （文法）と（演習）を履修する 2 回生以上の新規履修者及び回生を問わず第 3 外国語として履修を希望する者は、1 回生向け指定クラスのいずれかを選び、履修してください。ただし、必ず同一クラスの（文法）と（演習）を平行して履修してください。ⅠA・ⅠBを通して同じクラスで履修することが望ましい。
- ◇ 後期から新たにフランス語を履修する者は、『フランス語ⅠA 再履修クラス』で受講してください。ただし、文法の集中クラスは、再履修者に限るため履修できません。
- ◇ （8H コース）はクラス指定の（文法）と（演習）の代わりに履修することができます。ただし、再履修者を除きます。通年で 16 単位修得できますが、卒業に必要な単位として認められる単位数は各学部によって異なりますので、注意してください。

《フランス語Ⅱ（中級）》〔F2〕 ※外国語予備登録は p.46～参照

科目名	符号	開講期	単位	対象回生	外国語予備登録	備考
フランス語ⅡA	F21A	前期	2	2以上	要	
フランス語ⅡA（演習）	F22A	Ⅱ	2			
フランス語Ⅱ（6Hコース）	F23	通年	12	2以上	要	
フランス語ⅡB	F21B	後期	2	2以上	要	
フランス語ⅡB（演習）	F22B	Ⅱ	2			

【履修上の注意】

- ◇ 平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生が履修し、単位を修得した場合には、上記単位数の 2 分の 1 が卒業に必要な単位として算入されます。
- ◇ 平成 28 年度以降の卒業要件が適用される学部生は、<初級>をいかなる組み合わせでもよいから 4 単位以上修得していること、平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生は、卒業に必要な単位として<初級>をいかなる組み合わせでもよいから 2 単位以上修得していることを条件とします。また、入学時に初修外国語初級免除か既修得単位が認定されている学生も履修を認めます。ただし、平成 24 年度以前開講の 2H コースを修得していても、<中級>・<上級>を予備登録することはできません。
- ◇ 一開講期に 2 クラスまで履修することができます。<初級>とは異なり、（演習）とその他のクラスを組み合わせる必要はありません（例：フランス語ⅡA を 2 クラス履修することができます）。コース別の区分（「運用能力アップコース」は「精読」「聴き取り」「作文」「発音フォローアップ」「文法フォローアップ」などが、「文明理解コース」は「フランス文化」「フランス文学」「政治経済」「マスメディア」などがあります）を参考にして、自分の目的に適したクラスを選択してください。
- ◇ ⅡA（演習）・ⅡB（演習）は、平成 28 年度以降の卒業要件が適用される学部生は、計 4 単位まで、平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生は、ⅡA（演習）・ⅡB（演習）の単位数の 2 分の 1 と、平成 28 年度まで開講のⅡA（実習）・ⅡB（実習）の単位数とを合わせて 2 単位までしか卒業に必要な単位として認められません。

《フランス語Ⅲ（上級）》〔F3〕

※外国語予備登録は p.46～参照

科目名	符号	開講期	単位	対象回生	外国語予備登録	備考
フランス語ⅢA	F3A	前期	2	2以上	要	
フランス語ⅢB	F3B	後期	2	2以上	要	

【履修上の注意】

◇ <上級>コースですが、<中級>の代わりに履修することができます。

◇ 平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生が履修し、単位を修得した場合には、上記単位数の 2 分の 1 が卒業に必要な単位として算入されます。

■ 予備登録上の注意 ■

① フランス語の<中級>・<上級>を予備登録するためには、平成 28 年度以降の卒業要件が適用される学部生は、<初級>を 4 単位以上、平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生は、卒業に必要な単位として<初級>を 2 単位以上修得していなければなりません。この<初級>の単位はどのような組み合わせでもかまいません（例. I A（文法）と I B（演習））。ただし、平成 24 年度以前開講の 2H コースを修得していても、<中級>・<上級>を予備登録することはできません。

② <中級>・<上級>の予備登録が可能なクラス数は、一開講期で 2 クラスを上限とします。この上限または、卒業に必要な単位数（ただし、原則として 2 クラスを超えることはできません）を超えて予備登録した場合には、全てのクラスが履修できなくなることがあります。ただし、卒業回生については例外措置を取ることがあります（p.50 参照）。

③ 平成 28 年度以降の卒業要件が適用される学部生は、フランス語Ⅱ（演習）は、計 4 単位まで卒業に必要な単位に認定されます。平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生は、フランス語Ⅱ（演習）の単位数の 2 分の 1 と、平成 28 年度まで開講のフランス語Ⅱ（実習）の単位数とを合わせて 2 単位まで卒業に必要な単位として認定されます。これらの上限を超えて履修しても、卒業に必要な単位としては認定されません。

④ フランス語Ⅱ（6H コース）は、半期科目ではなく通年科目で、これを履修すれば 12 単位が修得できます。卒業に必要な単位として認められる単位数は各学部によって異なりますので、注意してください。

⑤ <上級>は<中級>までの単位を修得した者のための科目ですが、<中級>の代わりに履修することもできます。

⑥ <初級>の再履修者は、<初級>の再履修クラスに予備登録してください。<中級>・<上級>の単位で、<初級>に替えることはできません。

平成 20 年度まで開講のフランス語Ⅰ（文法）の再履修者はフランス語ⅠA・ⅠB（文法）の再履修クラスを、フランス語Ⅰ（実習）の再履修者はフランス語ⅠA・ⅠB（演習）の再履修クラスを履修してください。

平成 27 年度まで開講のフランス語ⅠA（実習）の再履修者はフランス語ⅠA（演習）の再履修クラスを、フランス語ⅠB（実習）の再履修者はフランス語ⅠB（演習）の再履修クラスを履修してください。

再履修者で前期にⅠA、後期にⅠBの履修を希望する者は、1 回生向け指定クラスのいずれかを選んで、履修してください（予備登録が必要）。

⑦ 2 回生以上で初めて<初級>のフランス語Ⅰを履修する者は、1 回生向け指定クラスのいずれかを選んで、履修してください（予備登録が必要）。ただし、必ず同一クラスの（文法）と（演習）を並行して履修してください。また、できる限りⅠA・ⅠBを通して同じクラスで履修してください。

⑧ 学士入学者や編入学者等の既修得単位認定者、及び他大学・外国学校等でフランス語を学び、入学時に初級免除を認定された者が<中級>以上を履修する場合は、初年度は予備登録の調整日に個別に対応します。翌年度以降は、通常の前予備登録を行った上で、履修登録してください。なお、本学での<初級>の単位を取得せずに<中級>・<上級>を履修する場合は、予備登録の手続き以外に「特別履修手続き」が必要です。

⑨ 入学時に初級免除の認定を受けた者は、必要な単位の全てを<中級>・<上級>から修得してください。この場合も、登録ができるクラス数は一開講期で 2 クラスを上限とします。

⑩ 大学院学生で、中級以上のフランス語の履修を希望する場合は、予備登録の調整日に個別に対応します。

⑪ 予備登録については、国際高等教育院 HP（<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>）の「在学生・学内の方へ」の Q&A 内から「外国語予備登録 Q&A」も確認してください。

⑫ 下表のそれぞれの組合せは、同一テキストで同じ内容の授業を行うクラスのため、重複履修はできません。

組合せ	開講期	曜時限	科目名	クラス番号	担当教員
1	前期	火 4	フランス語ⅡA	F2105	堀 晋也
	前期	木 5	フランス語ⅡA	F2108	松井 真之介
2	後期	火 4	フランス語ⅡB	F2155	堀 晋也
	後期	木 5	フランス語ⅡB	F2158	松井 真之介

◆ 中国語 ◆

中国語を母語とする学生が中国語の履修を希望する場合は、中国語研究室（吉田南総合館東南棟 4階 406号室）で相談してください。

《中国語Ⅰ（初級）》【C1】 ※中国語初級は後期からの新規履修を認めていません。 外国語予備登録は p.46～参照

科目名	符号	開講期	単位	対象回生	外国語予備登録	備考
中国語ⅠA（文法）	C11A	前期	2	1以上	2回生以上は要	1回生向けクラス指定。
中国語ⅠA（演習）	C12A	〃	2			
中国語ⅠA（文法）・再履修クラス	C11A	前期集中	2	2以上	要	ⅠAまたはⅠの履修履歴のある者に限る。集中クラス
中国語ⅠA（演習）・再履修クラス	C12A	〃	2			
中国語ⅠB（文法）・再履修クラス	C11B	前期	2	2以上	要	ⅠBまたはⅠの履修履歴のある者に限る。集中クラスあり。
中国語ⅠB（演習）・再履修クラス	C12B	〃	2			
中国語ⅠB（文法）	C11B	後期	2	1以上	2回生以上は要	1回生向けクラス指定。
中国語ⅠB（演習）	C12B	〃	2			
中国語ⅠA（文法）・再履修クラス	C11A	後期	2	1以上	要	ⅠAまたはⅠの履修履歴のある者に限る。集中クラスあり。
中国語ⅠA（演習）・再履修クラス	C12A	〃	2			
中国語ⅠB（文法）・再履修クラス	C11B	後期集中	2	2以上	要	ⅠBまたはⅠの履修履歴のある者に限る。集中クラス
中国語ⅠB（演習）・再履修クラス	C12B	〃	2			

【履修上の注意】

（文法）と（演習）は同一テキストを使用し連携して授業を行うので、どちらか一方だけを履修登録することは原則としてできません。

◇平成27年度以前の卒業要件が適用される学部生が履修し、単位を修得した場合には、上記単位数の2分の1が卒業に必要な単位として算入されます。

◇1回生の履修について

- ①（文法）と（演習）は両方履修してください。
- ②（文法）と（演習）は同一クラスで履修してください。
- ③（文法）と（演習）を履修する1回生は、指定クラスで履修してください。

◇2回生以上の初級クラス履修について

- ①2回生以上の新規履修者は1回生向け指定クラスの（文法）と（演習）を両方履修してください（予備登録が必要）。ⅠA・ⅠBを通して同じクラスで履修することが望ましい。なお、学部によるクラスの指定はありません。
- ②2回生以上の再履修者のうち、（文法）・（実習）ともに単位未修得の者は（文法）と（演習）の再履修クラスを各1クラス履修してください。中国語ⅠA・ⅠB（文法）の再履修者は中国語ⅠA・ⅠB（文法）再履修クラスを、中国語ⅠA・ⅠB（実習）または中国語ⅠA・ⅠB（演習）の再履修者は中国語ⅠA・ⅠB（演習）再履修クラスを履修してください。学部によるクラスの指定はありません。

《中国語Ⅱ（中級）》【C2】 ※外国語予備登録は p.46～参照

科目名	符号	開講期	単位	対象回生	外国語予備登録	備考
中国語ⅡA [文法・文化理解]	C2A	前期	2	2以上	要	[文法・文化理解]、[会話・ネイティブ実習]はクラス名。[会話・ネイティブ実習]は集中クラスあり。
中国語ⅡA [会話・ネイティブ実習]	C2A	前期	2			
中国語ⅡB [文法・文化理解]	C2B	後期	2	2以上	要	[文法・文化理解]、[会話・ネイティブ実習]はクラス名。[会話・ネイティブ実習]は集中クラスあり。
中国語ⅡB [会話・ネイティブ実習]	C2B	後期	2			

【履修上の注意】

◇平成27年度以前の卒業要件が適用される学部生が履修し、単位を修得した場合には、上記単位数の2分の1が卒業に必要な単位として算入されます。

◇平成28年度以降の卒業要件が適用される学部生は、<初級>を4単位以上修得していること、平成27年度以前の卒業要件が適用される学部生は、卒業に必要な単位として<初級>を2単位以上修得していることを条件とします。また、入学時に初修外国語初級免除か既修得単位が認定されている学生も履修を認めます。

◇一開講期に2クラスまで履修することができます。

◇原則として、[文法・文化理解]クラスと[会話・ネイティブ実習]クラスから1クラスずつ選択してください。

■予備登録上の注意■

- ①中国語の<中級>を予備登録するためには、平成 28 年度以降の卒業要件が適用される学部生は、<初級>を 4 単位以上修得していること、平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生は、卒業に必要な単位として<初級>を 2 単位以上修得していなければなりません。
- ②<中級>の予備登録が可能なクラス数は、一開講期に原則として 2 クラスを上限とします。この上限または、卒業に必要な単位数（ただし、原則として 2 クラスを超えることはできません）を超えて予備登録した場合には、全てのクラスが履修できなくなることがあります。ただし、卒業回生については例外措置を取ることがあります（p.50 参照）。
- ③中国語の<中級>を履修する場合、原則として、[文法・文化理解] クラスと [会話・ネイティブ実習] クラスから 1 クラスずつ選択してください。
- ④<初級>の再履修者は、<初級>の再履修クラスに予備登録してください。<中級>の単位で、<初級>に替えることはできません。
中国語 I A（文法）、I B（文法）、I A（演習）、I B（演習）の再履修クラスへの予備登録は、それぞれ 1 クラスを上限とします。
平成 20 年度まで開講の中国語 I（文法）の再履修者は中国語 I A・I B（文法）の再履修クラスを、中国語 I（実習）の再履修者は中国語 I A・I B（演習）の再履修クラスを履修してください。
平成 27 年度まで開講の中国語 I A（実習）の再履修者は中国語 I A（演習）の再履修クラスを、中国語 I B（実習）の再履修者は中国語 I B（演習）の再履修クラスを履修してください。
- ⑤2 回生以上で初めて<初級>の中国語 I を履修する者及び回生を問わず第 3 外国語として履修を希望する者は、1 回生向けクラス指定の（文法）・（演習）を各 1 クラスずつ予備登録してください。
- ⑥学士入学者や編入学者等の既修得単位認定者、及び他大学・外国学校等で中国語を学び、入学時に初級免除を認定された者が<中級>以上を履修する場合は、初年度は予備登録の調整日に個別に対応します。翌年度以降は、通常の予備登録を行った上で、履修登録してください。なお、本学での<初級>の単位を取得せずに<中級>を履修する場合は、予備登録の手続き以外に「特別履修手続き」が必要です。
- ⑦入学時に初級免除の認定を受けた者は、必要な単位の全てを<中級>から修得してください。この場合も、予備登録ができるクラス数は一開講期で 2 クラスを上限とします。
- ⑧大学院学生で、<中級>以上の中国語の履修を希望する場合は、予備登録の調整日に個別に対応します。
- ⑨予備登録については、国際高等教育院 HP (<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>) の「在学生・学内の方へ」の Q&A 内から「外国語予備登録 Q&A」も確認してください。
- ⑩下表のそれぞれの組合せは、同一テキストで同じ内容の授業を行うクラスのため、重複履修はできません。

組合せ	開講期	曜時限	科目名	クラス番号	担当教員
1	前期	月 2	中国語 II A [会話・ネイティブ実習]	C212	殷 文怡
	前期	月 5	中国語 II A [会話・ネイティブ実習]	C214	殷 文怡
	前期	水 2	中国語 II A [会話・ネイティブ実習]	C215	殷 文怡
2	後期	月 2	中国語 II B [会話・ネイティブ実習]	C262	殷 文怡
	後期	月 5	中国語 II B [会話・ネイティブ実習]	C264	殷 文怡
	後期	水 2	中国語 II B [会話・ネイティブ実習]	C265	殷 文怡

◆ ロシア語 ◆

《ロシア語Ⅰ（初級）》〔R1〕

科目名	符号	開講期	単位	対象回生	備考
ロシア語ⅠA（文法）	R11A	前期	2	1以上	
ロシア語ⅠA（演習）	R12A	Ⅱ	2		
ロシア語ⅠB（文法）	R11B	後期	2	1以上	
ロシア語ⅠB（演習）	R12B	Ⅱ	2		

【履修上の注意】

- ◇ 平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生が履修し、単位を修得した場合には、上記単位数の 2 分の 1 が卒業に必要な単位として算入されます。
- ◇ （文法）と（演習）の両方とも履修してください。なお、履修する順序は、ⅠA からとします。
- ◇ 授業は、回生・学部・クラスを問わずに履修可能です。
- ◇ 緊急で止むを得ない場合（たとえば 1 つのクラスに 1 回生だけで 50 名を超す履修者が来たような場合）には、2 回生以上の学生は他の曜日・時限のクラスに移るなどの履修指導を実施する可能性があります。（参考：5. 外国語の履修について (2) 1 回生の履修クラスについて ③）

《ロシア語Ⅱ（中級）》〔R2〕

科目名	符号	開講期	単位	対象回生	備考
ロシア語ⅡA	R2A	前期	2	2以上	
ロシア語ⅡB	R2B	後期	2	2以上	

【履修上の注意】

- ◇ 平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生が履修し、単位を修得した場合には、上記単位数の 2 分の 1 が卒業に必要な単位として算入されます。
- ◇ 平成 28 年度以降の卒業要件が適用される学部生は、<初級>を 4 単位以上修得していること、平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生は、卒業に必要な単位として<初級>を 2 単位以上修得していることを条件とします。また、入学時に初修外国語初級免除か既修得単位が認定されている学生も履修を認めます。
- ◇ 一開講期に原則として 2 クラスまで履修することができます。
- ◇ 学士入学者や編入学者等の既修得単位認定者、及び入学時に初級免除を認定された者等が、本学での<初級>の単位を取得せずに<中級>を履修する場合は「特別履修手続き」が必要です。
- ◇ 入学時に初級免除の認定を受けた者は、必要な単位の全てを<中級>から修得してください。この場合も、履修登録ができるクラス数は一開講期で 2 クラスを上限とします。

◆ イタリア語 ◆

《イタリア語Ⅰ（初級）》〔I1〕

科目名	符号	開講期	単位	対象回生	備考
イタリア語Ⅰ（文法）	I1	通年	8	1以上	（文法）、（文法・会話）はクラス名。
イタリア語Ⅰ（文法・会話）	I1	通年	8	1以上	

【履修上の注意】

- ◇ 平成27年度以前の卒業要件が適用される学部生が履修し、単位を修得した場合には、上記単位数の2分の1が卒業に必要な単位として算入されます。
- ◇ 週2回のセット科目です。2回とも履修してください。
- ◇ 「イタリア語Ⅰ」は計3クラス（I101, I102, I103）開講されますが、将来「イタリア語ⅡA（I2102）・ⅡB（I2152）」を履修するためには、このうち「イタリア語Ⅰ（文法）I101」を履修しておく必要があります。

《イタリア語Ⅱ（中級）》〔I2〕

科目名	符号	開講期	単位	対象回生	備考
イタリア語ⅡA	I21A	前期	2	2以上	
イタリア語ⅡA（演習）	I22A	Ⅱ	2		
イタリア語ⅡB	I21B	後期	2	2以上	
イタリア語ⅡB（演習）	I22B	Ⅱ	2		

【履修上の注意】

- ◇ 平成27年度以前の卒業要件が適用される学部生が履修し、単位を修得した場合には、上記単位数の2分の1が卒業に必要な単位として算入されます。
- ◇ 平成28年度以降の卒業要件が適用される学部生は、<初級>を8単位以上修得していること、平成27年度以前の卒業要件が適用される学部生は、卒業に必要な単位として<初級>を4単位以上修得していることを条件とします。また、入学時に初級外国語初級免除か既修得単位が認定されている学生も履修を認めます。
- ◇ 一開講期に原則として2クラスまで履修することができます。ただしその場合、少なくとも1クラスは（演習）以外のクラスを選択しなければなりません。
- ◇ 「イタリア語ⅡA」は2クラス（I2101, I2102）開講されますが、「イタリア語ⅡB（I2152）」を履修するためには、このうち「イタリア語ⅡA（I2102）」を履修しておく必要があります。
- ◇ 学士入学者や編入学者等の既修得単位認定者、及び入学時に初級免除を認定された者等が、本学での<初級>の単位を取得せずに<中級>を履修する場合は「特別履修手続き」が必要です。
- ◇ 入学時に初級免除の認定を受けた者は、必要な単位の全てを<中級>から修得してください。この場合も、履修登録ができるクラス数は一開講期で2クラスを上限とします。

◆ スペイン語 ◆

《スペイン語Ⅰ（初級）》【S1】 ※スペイン語初級は後期からの新規履修を認めていません。 外国語予備登録は p.46～参照

科目名	符号	開講期	単位	対象回生	外国語予備登録	備考
スペイン語ⅠA（文法）	S11A	前期	2	1以上	2回生以上の「新規*」履修者は要	1回生向けクラス指定 ※「新規」履修者とは、過去に履修登録をしたことがない者のことをいう。
スペイン語ⅠA（演習）	S12A	//	2			
スペイン語ⅠA（会話）	S13A	前期集中	2			
スペイン語ⅠA（文法）・再履修クラス	S11A	前期集中	2	2以上	要	集中クラス（ⅠAまたはⅠの履修履歴のある者に限る。）
スペイン語ⅠA（演習）・再履修クラス	S12A	//	2			
スペイン語ⅠB（文法）・再履修クラス	S11B	前期集中	2			
スペイン語ⅠB（演習）・再履修クラス	S12B	//	2			
スペイン語ⅠB（文法）	S11B	後期	2	1以上	2回生以上の「新規*」履修者は要	1回生向けクラス指定 ※「新規」履修者とは、過去に履修登録をしたことがない者のことをいう。
スペイン語ⅠB（演習）	S12B	//	2			
スペイン語ⅠB（会話）	S13B	後期集中	2			
スペイン語ⅠA（文法）・再履修クラス	S11A	後期集中	2	1以上	要	集中クラス（ⅠAまたはⅠの履修履歴のある者に限る。）
スペイン語ⅠA（演習）・再履修クラス	S12A	//	2			
スペイン語ⅠB（文法）・再履修クラス	S11B	後期集中	2	2以上	要	集中クラス（ⅠBまたはⅠの履修履歴のある者に限る。）
スペイン語ⅠB（演習）・再履修クラス	S12B	//	2			

【履修上の注意】

- ◇ スペイン語Ⅰについては、次のサイトを教科書として用います。 <https://esp-kyoto-u.com>
- ◇ 平成27年度以前の卒業要件が適用される学部生が履修し、単位を修得した場合には、上記単位数の2分の1が卒業に必要な単位として算入されます。
- ◇（文法）と（演習）の両方とも履修してください。
- ◇（文法）と（演習）を履修する1回生は指定クラスで履修してください。2回生以上の新規履修者は、1回生向けクラス指定科目を履修してください（予備登録が必要です）。
- ◇再履修者は、再履修クラスに予備登録した上で履修してください。1回生向けクラス指定科目を履修することはできません。
- ◇（会話）については、スペイン語学習歴がない場合は（文法）と（演習）との並行履修をしてください。また、学部によっては卒業単位として認められないことがあるので、所属学部の規定をよく確認してください。特殊な形態のコースであるため、欠席の扱いも他のコースとは異なります。シラバスを熟読してください（予備登録が必要）。

《スペイン語Ⅱ（中級）》【S2】 ※外国語予備登録は p.46～参照

科目名	符号	開講期	単位	対象回生	外国語予備登録	備考
スペイン語ⅡA	S21A	前期	2	2以上	要	
スペイン語ⅡA（演習）	S22A	//	2			
スペイン語ⅡB	S21B	後期	2	2以上	要	
スペイン語ⅡB（演習）	S22B	//	2			

【履修上の注意】

- ◇ スペイン語ⅡB（文法）の単位を修得していること、または入学時に初修外国語初級免除が既修得単位が認定されていることを条件とします。なお、前期にスペイン語ⅡB（文法）再履修クラスを履修し、単位を修得した場合は、後期から<中級>を履修することが可能です。
- ◇一開講期に2クラスまで履修することができます。ただしその場合、前期はⅡAとⅡA（演習）、後期はⅡBとⅡB（演習）の組み合わせに限定されます。

■予備登録上の注意■

- ①スペイン語の<中級>を予備登録するためには、スペイン語 IB（文法）の単位を修得していなければなりません。
- ②<中級>の予備登録が可能なクラス数は、一開講期に2クラスを上限とします。この上限または、卒業に必要な単位数（原則として2クラスを超えることはできません）を超えて予備登録した場合には、全てのクラスが履修できなくなることがあります。
- ③<中級>を同一開講期に2クラス履修する場合は、前期はIIAとIIA（演習）、後期はIIBとIIB（演習）の組み合わせに限定されます。
- ④<初級>の再履修者は、<初級>の再履修クラスに予備登録してください。<中級>の単位で、<初級>に替えることはできません。
平成22年度まで開講のスペイン語 I（文法）の再履修者はスペイン語 IA・IB（文法）の再履修クラスを、スペイン語 I（実習）の再履修者はスペイン語 IA・IB（演習）の再履修クラスを履修してください。
平成27年度まで開講のスペイン語 IA（実習）の再履修者はスペイン語 IA（演習）の再履修クラスを、スペイン語 IB（実習）の再履修者はスペイン語 IB（演習）の再履修クラスを履修してください。
- ⑤学士入学者や編入学者等の既修得単位認定者、及び他大学・外国学校等でスペイン語を学び、入学時に初級免除を認定された者が<中級>以上を履修する場合は、初年度は予備登録の調整日に個別に対応します。翌年度以降は、通常の予備登録を行った上で、履修登録してください。なお、本学での<初級>の単位を修得せずに<中級>を履修する場合は、予備登録の手続き以外に「特別履修手続き」が必要です。
- ⑥入学時に初級免除の認定を受けた者は、必要な単位の全てを<中級>から修得してください。この場合も、予備登録ができるクラス数は一開講期で2クラスを上限とします。
- ⑦大学院学生で、<中級>以上のスペイン語の履修を希望する場合は、予備登録の調整日に個別に対応します。
- ⑧予備登録については、国際高等教育院 HP (<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>) の「在学生・学内の方へ」の Q&A 内から「外国語予備登録 Q&A」も確認してください。

◆ 朝鮮語 ◆

《朝鮮語Ⅰ(初級)》[K1]

科目名	符号	開講期	単位	対象回生	備考
朝鮮語ⅠA(文法)	K11A	前期	2	1以上	
朝鮮語ⅠA(演習)	K12A	//	2		
朝鮮語ⅠB(文法)	K11B	後期	2	1以上	
朝鮮語ⅠB(演習)	K12B	//	2		

【履修上の注意】

- ◇ 平成27年度以前の卒業要件が適用される学部生が履修し、単位を修得した場合には、上記単位数の2分の1が卒業に必要な単位として算入されます。
- ◇ (文法)と(演習)の両方とも履修してください。

《朝鮮語Ⅱ(中級)》[K2]

科目名	符号	開講期	単位	対象回生	備考
朝鮮語ⅡA	K21A	前期	2	2以上	
朝鮮語ⅡA(演習)	K22A	//	2		
朝鮮語ⅡB	K21B	後期	2	2以上	
朝鮮語ⅡB(演習)	K22B	//	2		

【履修上の注意】

- ◇ 平成27年度以前の卒業要件が適用される学部生が履修し、単位を修得した場合には、上記単位数の2分の1が卒業に必要な単位として算入されます。
- ◇ 平成28年度以降の卒業要件が適用される学部生は、<初級>を4単位以上修得していること、平成27年度以前の卒業要件が適用される学部生は、卒業に必要な単位として<初級>を2単位以上修得していることを条件とします。また、入学時に初修外国語初級免除か既修得単位が認定されている学生も履修を認めます。
- ◇ 一開講期に原則として2クラスまで履修することができます。
- ◇ 学士入学者や編入学者等の既修得単位認定者、及び入学時に初級免除を認定された者等が、本学での<初級>の単位を取得せずに<中級>を履修する場合は「特別履修手続き」が必要です。
- ◇ 入学時に初級免除の認定を受けた者は、必要な単位の全てを<中級>から修得してください。この場合も、履修登録ができるクラス数は一開講期で2クラスを上限とします。

◆ アラビア語 ◆

《アラビア語Ⅰ（初級）》〔A1〕

科目名	符号	開講期	単位	対象回生	備考
アラビア語ⅠA（文法）	A11A	前期	2	1以上	
アラビア語ⅠA（演習）	A12A	Ⅱ	2		
アラビア語ⅠB（文法）	A11B	後期	2	1以上	
アラビア語ⅠB（演習）	A12B	Ⅱ	2		

【履修上の注意】

- ◇ 平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生が履修し、単位を修得した場合には、上記単位数の 2 分の 1 が卒業に必要な単位として算入されます。
- ◇ （文法）と（演習）の両方とも履修してください。
- ◇ ⅠB を履修するには、ⅠA を履修していることを条件とします。やむをえずⅠB から履修する場合、事前に担当教員に相談してください。

《アラビア語Ⅱ（中級）》〔A2〕

科目名	符号	開講期	単位	対象回生	備考
アラビア語ⅡA	A21A	前期	2	2以上	講読
アラビア語ⅡA（演習）	A22A	Ⅱ	2		
アラビア語ⅡB	A21B	後期	2	2以上	講読
アラビア語ⅡB（演習）	A22B	Ⅱ	2		

【履修上の注意】

- ◇ 平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生が履修し、単位を修得した場合には、上記単位数の 2 分の 1 が卒業に必要な単位として算入されます。
- ◇ 平成 28 年度以降の卒業要件が適用される学部生は、<初級>を 4 単位以上修得していること、平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生は、卒業に必要な単位として<初級>を 2 単位以上修得していることを条件とします。また、入学時に初修外国語初級免除か既修得単位が認定されている学生も履修を認めます。
ⅡB の講読を履修する者は、ⅡA の講読を 1 単位以上修得していることが望ましい。
- ◇ 一開講期に原則として 2 クラスまで履修することができます。
- ◇ 学士入学者や編入学者等の既修得単位認定者、及び入学時に初級免除を認定された者等が本学での<初級>の単位を取得せずに <中級>を履修する場合は、「特別履修手続き」が必要です。
- ◇ 入学時に初級免除の認定を受けた者は、必要な単位の全てを<中級>から修得してください。この場合も、履修登録ができるクラス数は一開講期で 2 クラスを上限とします。

◆ 日本語 ◆

日本語は、外国人留学生対象のクラスです。

科目名	開講期	単位	対象回生	履修条件等
日本語初級 IA (4Hコース)	前期	4	主として	工学部地球工学科国際コース学生専用 (その他の学生は外国人留学生も含めて受講は原則として認められません。)
日本語初級 IB (4Hコース)	後期	4	1 回生	
日本語初級 IIA (4Hコース)	前期	4	主として	
日本語初級 IIB (4Hコース)	後期	4	2 回生	
日本語中級 IA (4Hコース)	前期	4	1 以上	外国人留学生対象
日本語中級 IB (4Hコース)	後期	4	1 以上	
日本語中級 I (8Hコース)	前期・後期	8	1 以上	
日本語中級 I (会話)	前期・後期	2	1 以上	
日本語中級 I (聴解)		2		
日本語中級 I (読解)		2		
日本語中級 I (作文)		2		
日本語中級 I (漢字)		2		
日本語中級 IIA (4Hコース)	前期	4	1 以上	
日本語中級 IIB (4Hコース)	後期	4	1 以上	
日本語中級 II (8Hコース)	前期・後期	8	1 以上	
日本語中級 II (会話)	前期・後期	2	1 以上	
日本語中級 II (聴解)		2		
日本語中級 II (読解)		2		
日本語中級 II (作文)		2		
日本語上級 (聴解)	前期・後期	2	1 以上	外国人留学生対象
日本語上級 (会話)		2		
日本語上級 (読解)		2		
日本語上級 (作文)		2		
日本語上級 (論文・レポート作成)		2		
日本語上級 (講義聴解)		2		
日本語上級 (研究発表)		2		
日本語上級 (討論技術)		2		
経済・経営日本語 (上級) I	前期	2	1 以上	文科系学部外国人留学生対象 定員 20 名
経済・経営日本語 (上級) II	後期	2		

【履修上の注意】

- ◇平成 27 年度以前の卒業要件が適用される学部生が上記科目を履修し、単位を修得した場合には、上記単位数の 2 分の 1 が卒業に必要な単位として算入されます。
- ◇日本語中級、日本語上級は、プレースメントテスト及び履修相談によりクラス分けが実施されます。プレースメントテストの結果によっては、希望するクラスの履修が認められない場合があります。なお、プレースメントテストの手続き等の詳細は各開講期に別途お知らせします。
- ◇日本語中級、日本語上級の履修登録は上記のプレースメントテスト及び履修相談の結果に従って登録してください。履修登録期間までに KULASIS の履修登録候補科目設定画面に履修を許可された科目が表示されます。自分で履修科目を追加することはできません。なお、候補科目設定画面に追加されただけでは履修登録は終わっていません。履修登録期間に必ず確定してください。
- ◇平成 28 年度以前に日本語の単位を修得した学生は、履修科目を決定するにあたって担当教員の指示に従ってください。

各学部毎の履修クラスは次のとおりです。

学部	履修クラス		
	平成 27 年度以前入学者※1	平成 28 年度入学者	平成 29 年度入学者
総合人間学部	日本語中級、日本語上級、「経済・経営日本語 (上級) I・II」から 4 単位まで。上級科目を少なくとも 2 単位含めること。	日本語中級、日本語上級、「経済・経営日本語 (上級) I・II」から 8 単位まで。上級科目を少なくとも 4 単位含めることが望ましい。	日本語上級、「経済・経営日本語 (上級) I・II」から 8 単位まで。
教育学部	日本語上級、「経済・経営日本語 (上級) I・II」から 4 単位まで。	日本語上級、「経済・経営日本語 (上級) I・II」から 8 単位まで。	

経済学部	日本語上級、「経済・経営日本語（上級）Ⅰ・Ⅱ」から8単位。	日本語上級、「経済・経営日本語（上級）Ⅰ・Ⅱ」から16単位。	
理学部	日本語中級、日本語上級から4単位以上6単位まで。（平成17～20年度入学者は6単位。）	日本語中級、日本語上級から12単位まで。	
薬学部	日本語上級から4単位以上。	日本語上級から8単位以上。	
工学部※2 ・農学部	日本語中級、日本語上級から4単位以上。	日本語中級、日本語上級から8単位以上。	日本語上級から8単位以上。

※1 上述のとおり、上記単位数の2分の1が卒業に必要な単位として算入されます。

※2 工学部地球工学科国際コースの外国人留学生は、国際コース向けに提供される「日本語初級ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」を履修してください。ただし、入学時のプレースメントテストに従い、日本語中級あるいは日本語上級の履修も可能です。中級以上の日本語の履修については、担当教員の指示に従ってください。